

セアカゴケグモに 気をつけましょう!



《特定外来生物 セアカゴケグモ》

セアカゴケグモは、オーストラリア原産の小型のクモです。日本に輸入される資材などに付着して、国内に侵入したと考えられています。(自力での移動距離は短い)

今までに45都道府県で確認されています。(2020年7月現在)

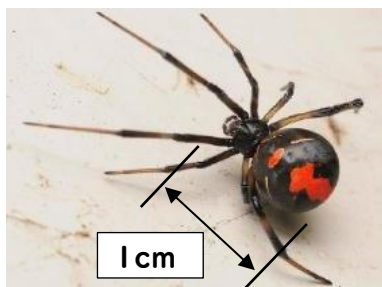
攻撃性は高くありませんが、メスは**毒**を持っており、咬まれると痛むほか、重症化する場合があります。

そのため、外来生物法(特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律)に基づく**特定外来生物**に指定されています。

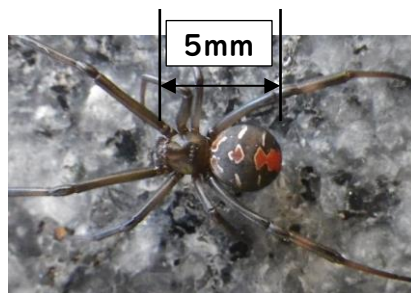
《セアカゴケグモの外見》※ オスとメスでは姿が異なります。

メス ※毒を持っているのはメスだけです。

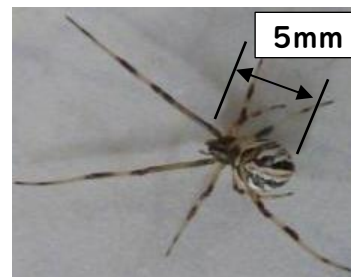
- ・メス(成体)は**体長1cm前後**で、全体的に黒く、つやがあります。
- ・腹部の背面には、直線状あるいは**ひし形を二つ並べたような形の赤い線**があります。
- ・未成体の腹部の背面には、**赤い線とその周りに白い斑紋**があります。



(セアカゴケグモのメス(成体))



(セアカゴケグモのメス(未成体))



(セアカゴケグモのオス)



(セアカゴケグモのメスと卵のう)

《問合せ先》

米子市市民生活部 環境政策課 TEL:0859-23-5257
鳥取県西部総合事務所環境・循環推進課 TEL:0859-31-9628

《セアカゴケグモの生息環境》

🕸️ ライフサイクル(活動時期)

- ・5月から産卵を始め、1匹のメスが1週間に1個程度のペースで卵のうを作ります。
※1日の平均気温が20℃を超えると活動を始め、卵を生み始めます。
- ・6月の初めには、子グモが卵のうから出始めます。
※成体まで成長するには2か月程度かかります。
- ・7月～10月にかけて、繁殖・活動を活発化させます。
- ・11月に入ると、気温が15℃以下になるため活動しなくなります。

🕸️ 生息環境(生息場所)

- ・冬季は細かい枯れ葉や枯れ芝でできた巣の中で過ごし、幼体はグレーチングの裏などで巣を作らずに生存します。
- ・春から夏にかけては、道路側溝の中、プランター、エアコンの室外機、遊具の下、ベンチの下、岩のくぼみ等で生息します。人工物、岩、枯れた植物など低い位置に網を張ります。

🕸️ 天敵の存在

- ・セアカゴケグモは小さいうちは、ゲジとハサミムシ等の肉食の昆虫により捕食されているものと考えられます。セアカゴケグモの駆除を行う際には天敵を死滅させないようにしましょう。

《こんなときはどうすればいいの?》

🕸️ セアカゴケグモを見つけた場合

- 米子市または鳥取県に連絡してください。
- 素手で捕まえたり、触らないようにしてください。
- 駆除するには、市販されている殺虫剤の噴霧が効果的です。また、熱湯をかける、足で踏みつぶす等の物理的な方法があります。

🕸️ セアカゴケグモに咬まれた場合

- すみやかに皮膚科など医療機関にご相談ください。
- 咬んだクモの種類がわかるように、できれば殺したクモを病院へご持参ください。
- 高齢者や乳幼児は症状の進行が早く、重症化のリスクが高くなります。

🕸️ 特定外来生物とは!?

特定外来生物とは、海外起源の外来生物であって、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、又は及ぼすおそれがあるものの中から指定されます。特定外来生物は、生きているものに限られ、個体だけでなく、卵、種子、器官なども含まれます。

飼育、栽培、運搬、保管、販売、輸入などが原則として禁止されています。

※ 違反すると懲役刑もしくは罰金刑が課せられます。

その他の情報は、
米子市ホームページをご覧ください。
<https://www.city.yonago.lg.jp/item/20023.htm>



編集・発行/2022.8.18

米子市環境政策課

